

製品名: オステオポンチンウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21386**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:35kD;Observed MW:55,65kD

抗原情報

遺伝子名	SPP1
別名	SPP1;BNSP;OPN;PSEC0156;Osteopontin;Bone sialoprotein 1;Nephropontin;Secreted phosphoprotein 1;SPP-1;Urinary stone protein;Uropontin
遺伝子 ID	6696
SwissProt ID	P10451
免疫原	ヒトオステオポンチンの組み換えタンパク質

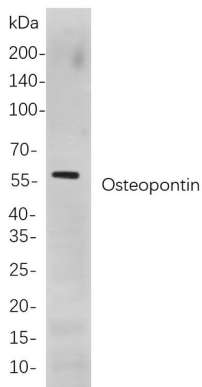
背景

細胞局在: 分泌型。分泌リン酸化タンパク質 1 (SPP1) ホモ・サピエンス。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、破骨細胞の石灰化骨基質への接着に関与する。コードされるタンパク質は分泌され、ヒドロキシアパタイトに高親和性で結合する。破骨細胞ピトロネクチン受容体は細胞膜に存在し、このタンパク質への結合に関与している可能性がある。このタンパク質は、インターフェロン- γ およびインターロイキン-12 の発現を上昇させるサイトカインでもある。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2011 年 10 月]

研究分野

-

画像データ



A549 細胞のライセートのウエスタンブロット解析 (オステオポンチンウサギ mAb を使用)。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を使用した。